

複雑な限定項目の該当チェックを行うテクニック



Excel アンケート太閤で回答データのチェックに「限定項目の該当チェック」をよく使用しています。この機能は大変便利なのですが、限定対象の項目(親元項目)が1つしか設定できません。今回、複数の項目を対象にした「限定項目の該当チェック」を行う必要が生じたのですが、どのように行えばよいのでしょうか？



太閤では、「限定項目の該当チェック」機能により、関連のあるアンケート質問の回答データをチェックする機能がありますが、ご指摘のようにチェックするための質問項目は1つしか選択できません。しかし、複数の機能を組み合わせることによって複雑な「限定項目の該当チェック」を行う事が可能です。

まず「限定項目の該当チェック」機能のおさらいをしましょう。

《例1》通常の場合

問1 あなたはAという製品を使用したことがありますか？

(1)使用したことがある (2)使用したことはない

問2 問1の設問に「(1)使用したことがある」と答えた方だけにお聞きします。

使用した感想をお聞かせください。

(1)とても良かった (2)良かった (3)どちらともいえない (4)悪かった (5)とても悪かった

この場合の問2の質問は、問1に「(1)使用したことがある」と答えた人のみが回答の対象となる回答者限定の質問になります。このような質問の場合には「A製品を使用していないのに使用感の設問に回答する」ような不正な回答される可能性があります。そのような回答をアンケートデータから排除することが正確な集計をする上で必要不可欠な事項となります。このような不正データを排除する機能として、太閤のデータチェックに「2.限定項目の該当チェック」があります。

この例ではデータチェックの設定方法が「問1の設問に1と答えた人のみ該当する(回答権がある)」設定になります。従って、このチェックを行う事によって、問1の設問に(2)と答えた人は回答から除外されることとなります。これを Excel アンケート太閤では「非該当データ」と記しています。

※限定項目の該当チェックを行う場合には、あらかじめ「項目設定」で、問2の項目設定内容に限定対象の項目(ここでは問1)を親元項目Noとして、「親元項目欄」に問1の項目番号が指定されている必要があります。

《例2》:親元項目が複数になる場合

- 問1 あなたはAという製品を使用したことがありますか？
(1)使用したことがある (2)使用したことはない
- 問2 あなたはBという製品を使用したことがありますか？
(1)使用したことがある (2)使用したことはない
- 問3 問1、問2の設問とも「(1)使用したことがある」と回答した方にお聞きします。
A、Bどちらの製品が良かったですか？
(1)A製品 (2)ABどちらともいえない (3)B製品 (4)ABどちらも良くない

この《例2》の場合の問3の質問は、問1・問2ともに「(1)使用したことがある」と答えた人だけが回答できる、回答者限定の質問になります。このような場合には限定対象の項目(以下、親元項目と呼びます)が複数となるため、親元項目が1つしか指定できない太閤では、そのままでは限定項目の内容チェックが行えません。しかし、以下の手順によって複数の親元項目がある場合でも限定項目該当チェックを行えるようになります。

手順

1. 限定したい項目を「回答者抽出条件」機能で作成します。
2. 作成した抽出条件をデータ加工の「9.条件式→SA」機能を使用してSA項目の実データに変換します。
3. 作成されたSA項目を「項目設定」機能で限定項目の親元項目として設定します。
4. 「限定項目の該当チェック」を行います。

手順の詳細

1.限定したい項目を「回答者抽出条件」機能で作成

限定項目としては、「問1、問2とも1と答えた人」となるので回答者抽出の条件設定は、下図のようになります。

条件No.	条件名	項目	記号	比較値	OR/AND	フラグ/1
1	A・B製品の使用経験者	(1)[2]問1:A製品の使用経験	=	1	AND	
2		(2)[2]問2:B製品の使用経験	=	1		
3						
4						

2.回答者抽出条件の変換

1で作成した回答者抽出の条件は、このままではデータ項目でないので、限定項目の該当チェックの限定項目として使用できません。そこで、データ加工の「条件式→SA」機能を使用してSA項目のデータを作成する必要があります。

3.項目設定の変更

データ加工の「条件式→SA」処理を行うと、回答者抽出条件で設定した条件式がSA項目のデータとして作成され、項目の最後に追加されます。下図のように、「項目設定」画面で、追加された項目番号を、限定項目の親元項目として設定します。

行No.	項目No.	項目名	データ形態	親元項目No.	カテゴリ数	小数点桁数	質
フリック	1	する	しない	する	する	する	しな
1	1	問1:A製品の使用経験	1			2	
2	2	問2:B製品の使用経験	1			2	
3	3	問3:AB製品の比較	1	4		4	
4	4	AB製品の使用経験	1			2	
5							
6							

4. 限定項目の該当チェックをかける

設定された項目で、「限定項目の該当チェック」を行います。該当カテゴリーを「あり」にして処理を行うと、当初の目的である、複数項目の回答を親元項目としたチェックが行えることになります。

限定項目の該当チェック

限定項目の指定
親元項目 No) 項目 No) [形態] [カテ-数] 項目名
(4) (3) [SA] [4] 問3-AB製品の比較

データファイルの書き換え
 する
 しない
OK
キャンセル
ヘルプ

親元項目
項目 No) [形態] [カテ-数] 項目名
(4) [SA] [2] AB製品の使用経験
親元項目の情報更新

該当カテゴリー
(4-1) あり
(4-2) なし
不明
非該当

該当数値
[] []
[] []

一度、簡単なデータを作成して試して頂くと良く判ると思います。

条件式を作成した後は、必ずデータチェック項目の「回答者抽出条件の該当チェック」機能を使って、条件式の内容をチェックしてください。